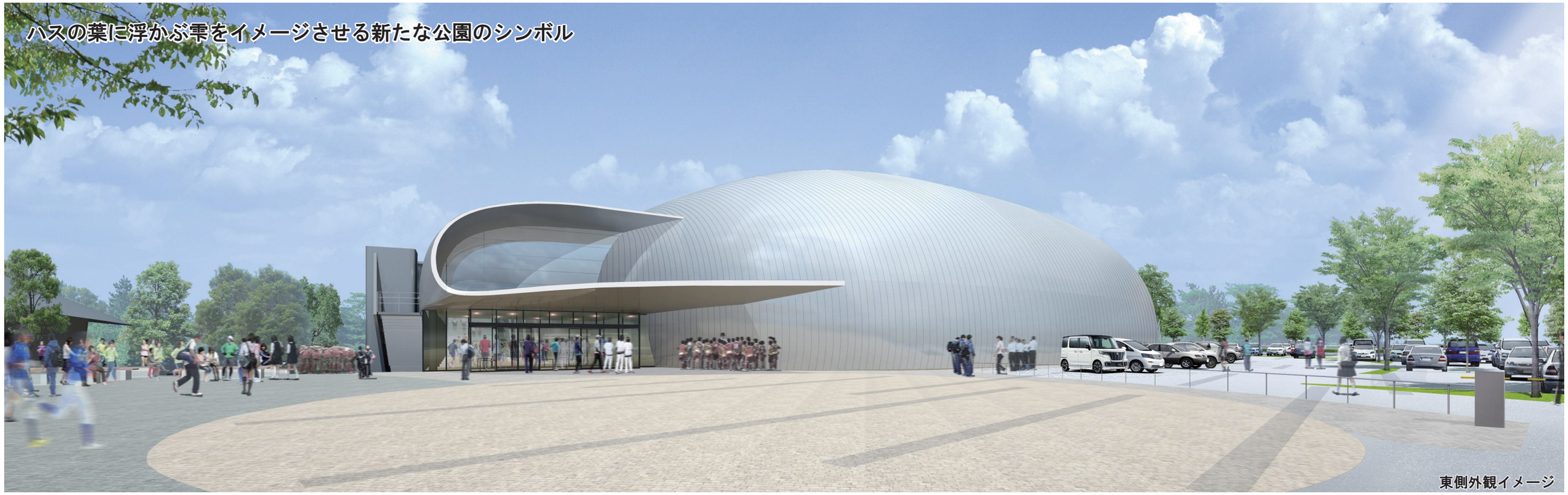
（仮称）千葉公園体育館整備基本設計　基本設計説明書　ー概要版ー

2019年（平成31年）2月

千葉市

【目次】

１．設計コンセプト ・・ 01
２．建築計画概要・・・ 02
３．配置計画・・ 03
４．平面計画・・ 04
５．内外装計画・・ 06
６．断面計画・・・ 07
７．環境配慮計画・・ 08
８．バリアフリー・ユニバーサルデザイン計画
９．防災計画・・・ 09



東側外観イメージ

上位計画による整備方針

①「するスポーツ」に対応できる施設
～本市のスポーツ活動の拠点施設

②「みる（みせる）スポーツ」に対応できる施設
～市民スポーツや障害者スポーツ観戦の拠点施設

③「ささえるスポーツ」に対応できる施設
～スポーツを通じた市民交流の拠点施設

④ 人と地球環境にやさしい施設
～ユニバーサルデザインに対応した施設／
経済性・維持管理に配慮した施設

⑤ 災害時の避難所として機能する施設
～避難所及び地域防災拠点としての必要機能を備えた施設

「（仮称）千葉公園体育館整備基本計画」より

本計画の特徴と留意点

① 公園内立地と隣接する千葉公園ドーム・住宅地に配慮した配置・動線・景観計画

② 不整形で高低差のある敷地の有効活用

設計コンセプト

基本計画における新体育館の整備方針に加え、本計画の特徴・留意点を踏まえ、設計コンセプトとして３つのテーマを設定します。

1．千葉公園のスポーツ活動・交流の拠点施設

・中心となる共用空間を、スポーツ情報の発信基地「スポーツフォーラム」とし、気軽に立ち寄り、スポーツをきっかけに人が集う、千葉公園の交流拠点を目指します。
・主要スポーツ諸室は共用空間に面した窓の設置によるスポーツ活動の「見える化」を行い、市民が様々なスポーツに出会い、自然と参加を促される仕掛けとします。
・多目的室はスポーツフォーラムに面して設置し、隣接するスポーツ諸室との連携利用、指導者育成のための研修や講座開催の利用など、多目的な利用に対応します。

2．様々なスポーツニーズに対応する合理的な施設づくり

・建物は敷地高低差を利用して積層化、かつコンパクトな集約配置により、最大駐車台数の確保、屋外スポーツ空間の設置等、敷地内の有効活用を図る計画とします。
・利用者の多いメイン・サブアリーナを、駐車場と同フロアとすることで誰もがアクセスしやすい計画とします。
・バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮し、障害者スポーツに対応できる計画とします。

3．周辺環境に調和する景観づくり

・建物は千葉公園のシンボルであるハスの葉に浮かぶ雫をイメージした形態とすることで、新たな公園のシンボルとして市民に親しまれることを目指します。
・建物形状は千葉公園ドームのデザインとの調和を図るとともに、ヴォリュームによる圧迫感を軽減し、公園の豊かな緑と調和する景観づくりを目指します。
・敷地の南西側に寄せたコンパクトな配置により、敷地北側の戸建て住宅地からの離隔を確保し、住宅地への圧迫感や日影の影響を軽減します。

2．建築計画概要

（１）計画敷地の概要

計画敷地は旧千葉競輪場跡地であり、リニューアル計画により敷地面積が縮小される新競輪施設（（仮称）千葉公園ドーム）に隣接し、緑豊かな千葉公園内の一角、モノレール千葉公園駅から徒歩５分の位置にあります。また、東側は弁天26号線に面するため、徒歩･モノレール･自動車等、様々な交通手段でのアクセスが可能であり、全市的スポーツ施設として市民が日常的に気軽に利用する体育館として最適な立地です。

１）地区名称　：千葉公園
２）所在地　　：千葉県千葉市中央区弁天3-1-1
３）敷地面積　：17,087.60㎡
４）用途地域　：第一種住居地域
５）建ぺい率　：60%
６）容積率　　：200%
７）地域地区　：第一種高度地区（高さ制限：20m）
８）日影規制　：４時間／2.5時間　地盤面より４m
９）接道　　：東側　　：弁天26号線　幅員　15.04m
　　北・西側：弁天46号線　幅員　4.52m～9.09m
10）上位計画　：「（仮称）千葉公園体育館整備基本計画」による

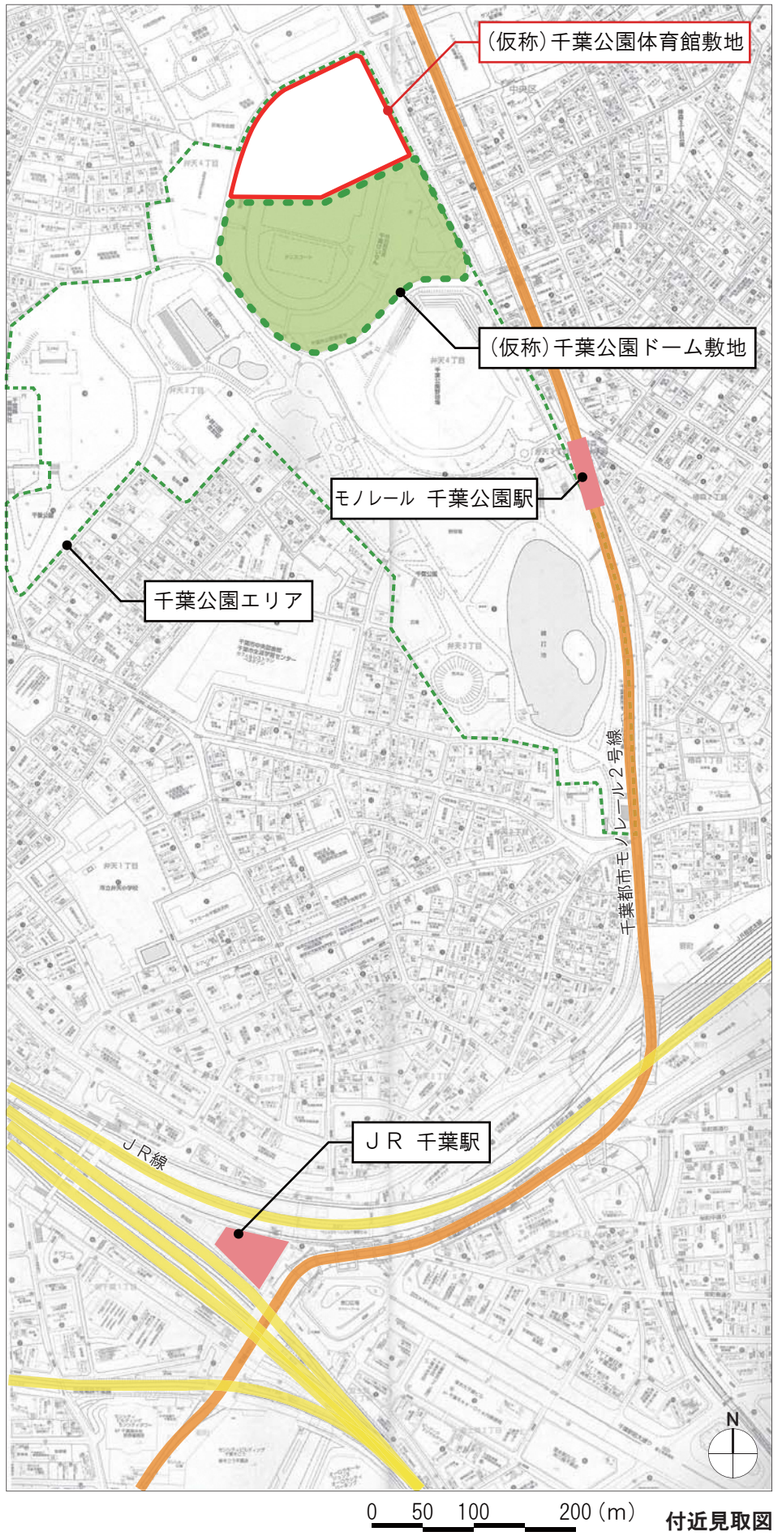
（２）計画建物の概要

市民のスポーツ活動の拠点並びに障害者スポーツ振興の拠点としての適正な機能や規模を確保するとともに、高度化・多様化している市民のスポーツニーズに対応するために、既存の「千葉公園体育館」、「千葉市武道館」及び「千葉市中央コミュニティセンター体育施設（プールを除く）」の３施設を集約し、新たな「（仮称）千葉公園体育館」として整備します。

既存３施設と集約化した（仮称）千葉公園体育館の床面積、駐車・駐輪台数の比較

	既存施設				（仮称）千葉公園体育館
	千葉公園体育館（既存）	千葉市武道館	千葉市中央コミュニティセンター体育施設	３施設の合計	
床面積	3,700 ㎡	1,391 ㎡	3,115 ㎡	8,206 ㎡	8,203 ㎡
施設専用駐車台数（内 車いす使用者用）	34（1） 台	11 台	0 台	45(1) 台	300（10） 台
駐輪台数	10 台	0 台	0 台	10 台	52 台

１）用途　　：体育館・観覧場
２）構造　　：ＲＣ造・一部鉄骨造
３）階数　　：地上３階
４）建物高さ　：20.0m　16.5m
５）建築面積　：4,922　㎡
６）延床面積　：8,203　㎡
７）主要用途　：体育館・観覧場
８）主要な室　：メインアリーナ、観覧席、サブアリーナ、武道場１・２、弓道・アーチェリー場、トレーニングルーム、多目的室、キッズルーム、事務室、更衣室、トイレ等
９）駐車台数
　利用者用：300台（車いす利用者用10台を含む）
　管理者用：6台
10）駐輪台数　：52台
11）電気設備
　受電方式：高圧１回線受電方式
12）空調設備
メイン・サブアリーナ：床輻射空調方式
　その他諸室：個別ヒートポンプパッケージ方式
13）昇降機設備
　用途：乗用
　定員：17人乗り
かご内法寸法：W1,800×D1,500



付近見取図

３．配置計画

公園内に立地する体育館として周辺環境と調和し、公園全体の整備計画を踏まえた配置計画・アプローチ計画を行います。

（１）周辺環境に配慮した配置計画

１）公園立地を考慮した配置計画

建物形状は隣接する千葉公園ドームとの調和を図るとともに、公園に立地する体育館として、ヴォリュームによる圧迫感を軽減します。また、沿道の歩道状空地への植栽や駐車場への樹木による緑化により、公園の緑と調和する配置計画とします。

２）コンパクトな配置計画による敷地の有効利用

建物は東西７mの高低差を利用した３層構成のコンパクトな集約配置とすることで、屋外スポーツテラスや必要駐車台数として想定される300台の駐車場、屋外設備スペースを確保し、敷地の有効活用を図ります。

３）住宅地への配慮

建物は敷地の南西側に寄せ、コンパクトに配置します。敷地北・東側の戸建て住宅地から離隔を確保し、住宅地への圧迫感や日影の影響を軽減します。

（２）公園のスポーツ活動の拠点施設として利用しやすいアプローチ計画

１）各方面から利用しやすいアクセスの確保

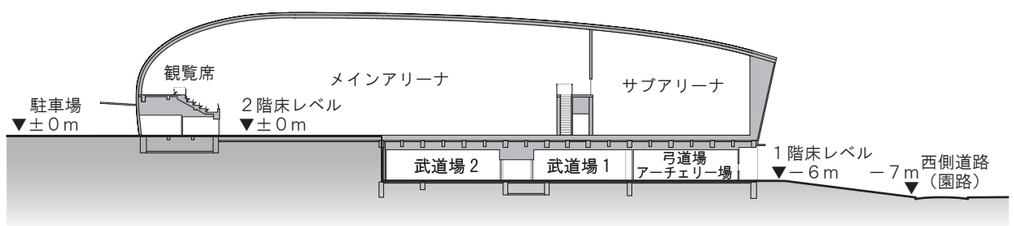
モノレール千葉公園駅や、隣接する（仮称）千葉公園ドーム･（仮称）ドーム広場からのアプローチに対応する駐車場側出入口を２階に、千葉公園･ＪＲ千葉駅からのアプローチに対応する公園側出入口を１階に設け、各方面からアクセスしやすい計画とします。

２）日常利用の多い車利用者への配慮

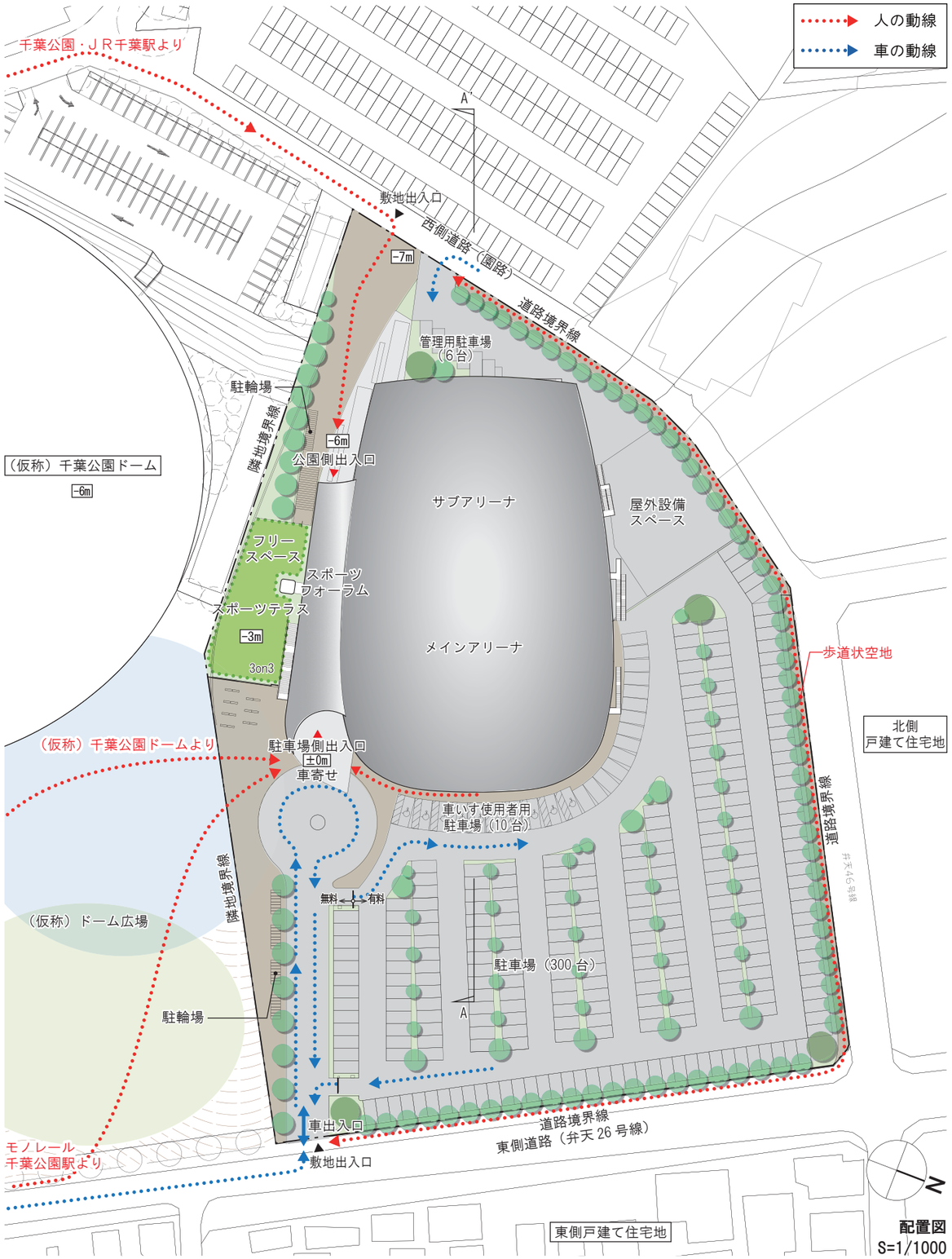
車利用者に配慮し、幅員が広く、車のメインアクセスとなる東側道路（弁天26号線）に面して駐車場を設けます。車寄せは、駐車場側出入口に近接して配置するとともに、駐車場のゲート外（無料エリア内）とし、バスやタクシーのアクセスにも対応した計画とします。また、管理用駐車場や屋外設備スペースへの車両動線は、西側道路（園路）からとし、利用者動線と明確に分離した計画とします。

３）公園内の回遊性を高める計画

東西のアクセスを結ぶスポーツフォーラムにより、体育館駐車場から千葉公園への土足動線を設け、公園内の回遊動線とします。西・北側の沿道には、敷地内に歩道状空地（幅員約２ｍ）を整備し、各方面からのアクセスの安全性を高めるとともに、公園内の回遊性も高める計画とします。



■高低差のある敷地の有効利用イメージ
A-A’断面　S=1/800



４．平面計画

（１）平面計画の考え方

千葉市の新たなスポーツ拠点として、市民の様々なニーズに応える利用しやすく管理しやすい平面計画とします。

１）明快なゾーニング

・武道場・トレーニングルーム、メイン・サブアリーナ、観覧席をフロア毎で分離したわかりやすく、管理しやすい計画とします。

・利用者の多いメイン･サブアリーナを駐車場と同じフロア（２階）に設けます。

・武道場・トレーニングルームは千葉公園からアクセス可能な西側道路と同じレベルとなる１階に設けます。アリーナと別フロアとすることで、メイン･サブアリーナでの大会開催時にも一般利用が可能な計画です。

・各フロアのスポーツゾーンに面して利用者の交流・休憩スペースとなる「スポーツフォーラム」を設けます。公園側出入口と駐車場側出入口をつなぐ「スポーツフォーラム」は、施設利用者だけでなく、千葉公園利用者の休憩スペースとしても利用可能な計画です。

・「スポーツフォーラム」は各スポーツゾーンに面して配置することで、スポーツ活動の「見える化」を図ります。市民が様々なスポーツに気軽に触れあうことのできる空間です。

・更衣室はスポーツ諸室のある１・２階にそれぞれ設けた利便性に配慮した計画とします。各階の共用部に面して配置することで、わかりやすさに配慮します。

・事務室・大会関連諸室は、駐車場側出入口に近接して集約配置します。利用者にわかりやすく、管理・運営もしやすい計画です。

２）わかりやすい動線計画

①一般利用者動線

・公園から駐車場への公園側出入口と駐車場側出入口を「スポーツフォーラム」でつなぎます。通り抜けも可能な計画により、千葉公園利用者の立ち寄りやすさにも配慮します。

・３層の吹抜け空間となる「スポーツフォーラム」に面して、エレベーター・階段を設けます。利用者にわかりやすく使いやすい計画です。

②観客動線

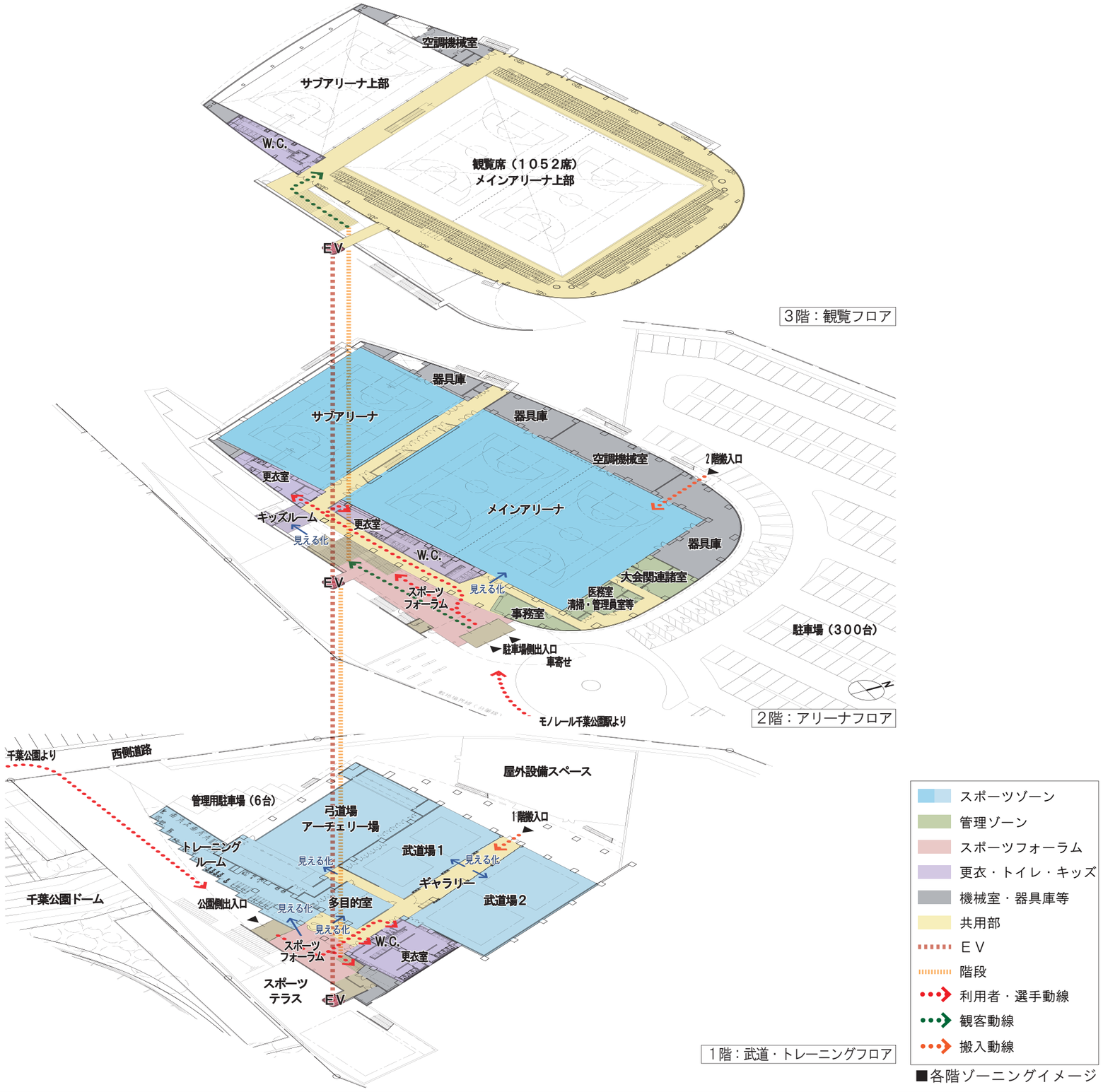
・観覧席へは「スポーツフォーラム」に配置した大階段でアクセスします。初めて訪れる利用者（観客）にもわかりやすい計画です。

③選手動線

・市民大会時の選手動線は、一般利用者と同じ駐車場側出入口からとします。

④搬入動線

・大会・イベント時等の搬入は、１階は武道場１・２間のギャラリーから、２階はメインアリーナ器具庫から行う計画とします。



■各階ゾーニングイメージ

（2）各フロア計画

1）１階：武道・トレーニングフロア

・トレーニングルームは公園側出入口に近接配置します。

・武道場１は柔道２面、武道場２は剣道２面（なぎなた２面）を確保します。

・各武道場は廊下を挟んで近接配置します。各武道場と廊下の間仕切りを開け放し可能な引き戸とすることで、廊下をギャラリー化します。

・弓道場は矢取道以外を屋内し、弓道以外にも多目的に利用可能な計画とします。

・多目的室はトレーニングルーム・弓道場に隣接配置します。

2）２階：アリーナフロア

・メイン・サブアリーナを近接配置し、一般利用から市民大会利用までフレキシブルに対応しやすい計画とします。

・メインアリーナに面して観覧席へつながるアリーナ内階段を設けます。

・キッズルームはメイン･サブアリーナと同フロアに設置します。

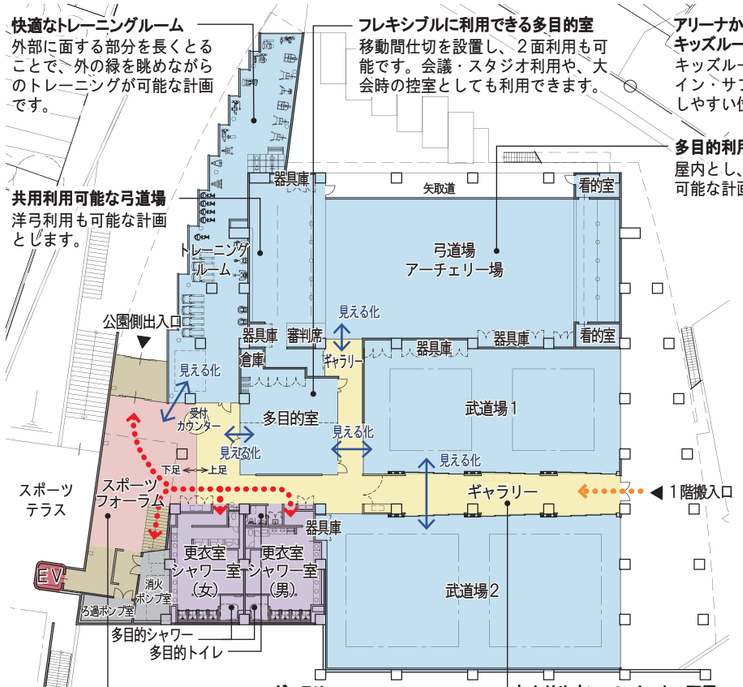
3）３階：観覧フロア

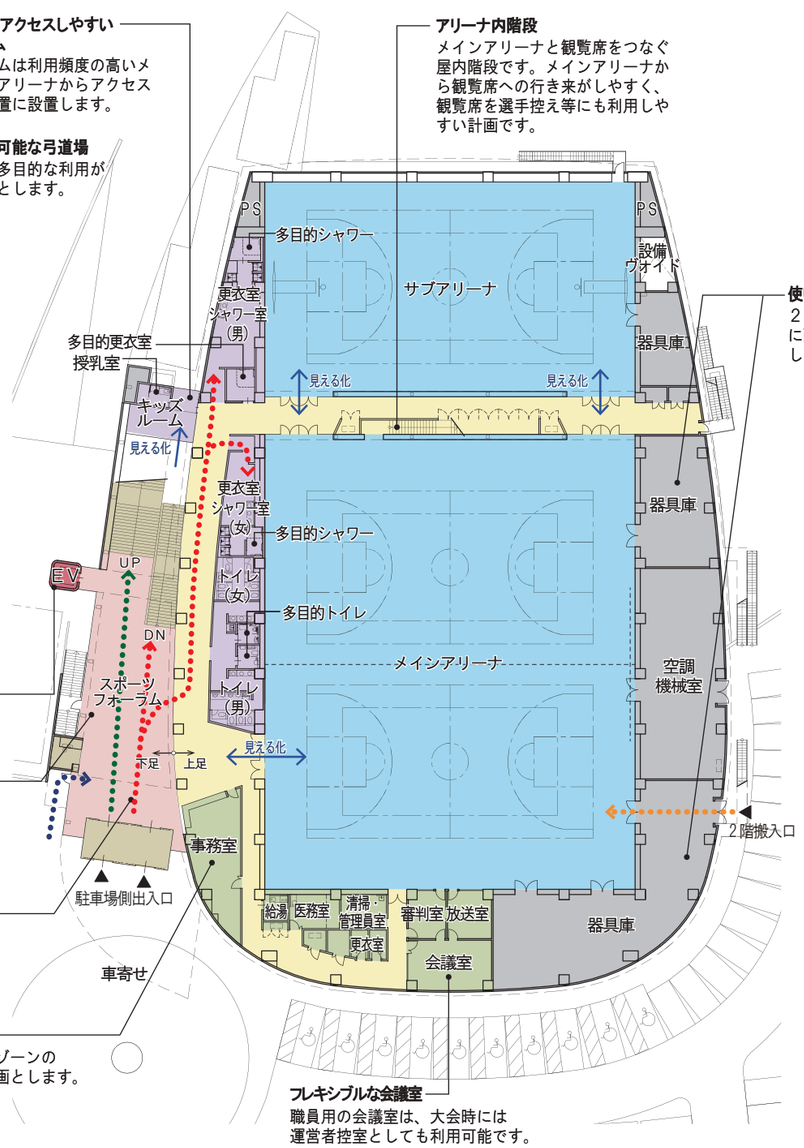
・車いす利用者用客席６席を含む１０５２席の観覧席を設けます。

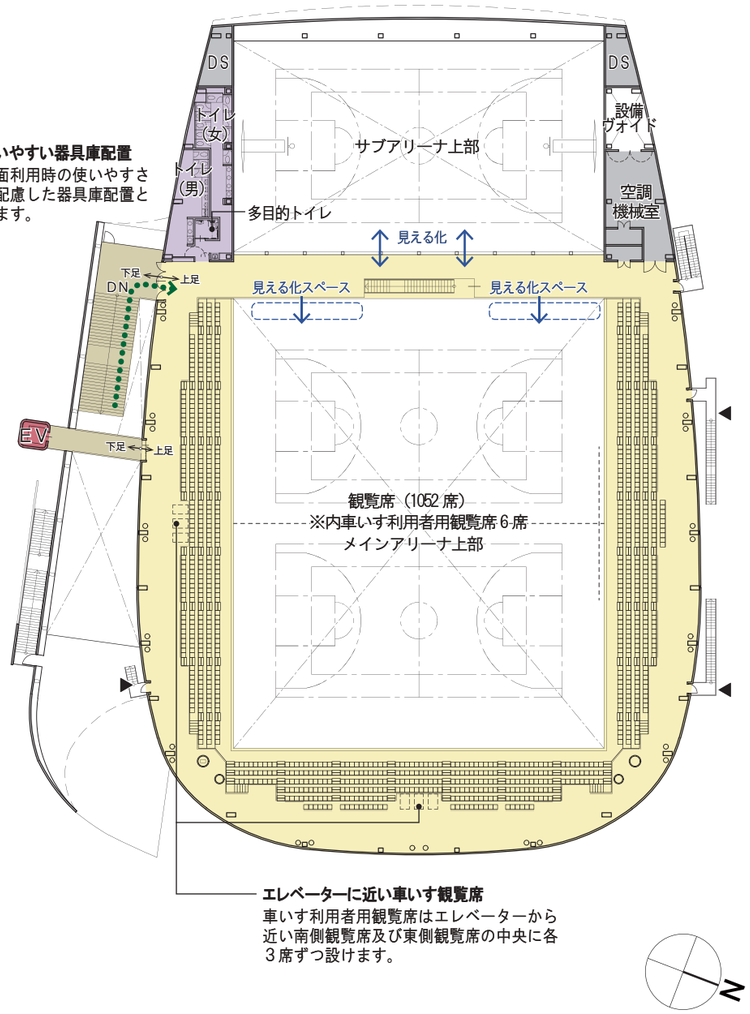
・観覧スペースとサブアリーナ間にはガラス窓を設け、サブアリーナの観覧も可能な計画とします。

主要スポーツ室の競技メニュー

メインアリーナ	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 ハンドボール フットサル	２面 ２面 １０面 １２面 １面 １面
サブアリーナ	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 フットサル	１面 １面 ４面 ６面 １面
武道場１	柔道場	２面
武道場２	剣道場	２面
弓道場・アーチェリー場	近的 洋弓	５人立 ５人立







凡例

- スポーツゾーン
- 管理ゾーン
- スポーツフォーラム
- 更衣・トイレ・キッズ
- 機械室・器具庫等
- 廊下等（上足ゾーン）
- 廊下等（下足ゾーン）
- ＥＶ
- 利用者動線
- 搬入動線
- 観客動線
- 職員動線

１階平面図　S=1/600

２階平面図　S=1/600

３階平面図　S=1/600

５．内外装計画

（１）立面計画の考え方

ドーム形状としたメイン・サブアリーナと調和するスポーツフォーラムからなる曲面を主体とした立面計画とします。

１） 公園の景観への調和

・ドーム形状の採用により、隣接する千葉公園ドームのデザインとの調和を図るとともに、公園に立地する体育館としてヴォリュームによる圧迫感を軽減し、公園の豊かな緑と調和する景観づくりを目指します。

2）千葉公園の新たなシンボル　　～ハスの葉に浮かぶ雫のイメージを持つアリーナ

・曲面を主体とした断面形状は、丸く柔らかな形状であるため、千葉公園のシンボルである、ハス池のハスの葉に浮かぶ雫のイメージを想起させます。新たな公園のシンボルとして市民に親しまれる体育館を目指します。

ハスの葉に浮かぶ雫のイメージ

（２）外装仕上げの考え方

・緑豊かな公園との調和に配慮した計画とします。

・ライフサイクルコストへの配慮からメンテナンスフリー資材の採用など、維持管理の容易な仕上材を選定します。

・アリーナの屋根は耐久性に優れ、漏水リスクの低いステンレスシーム溶接工法の採用により、建物の超寿命化とランニングコストの低減を図ります。

（３）内装仕上げの考え方

・競技室は公式試合としての性能を確保し、競技しやすい内部仕上げとします。

・メイン・サブアリーナの壁は衝突等に対する安全性を考慮した計画とします。

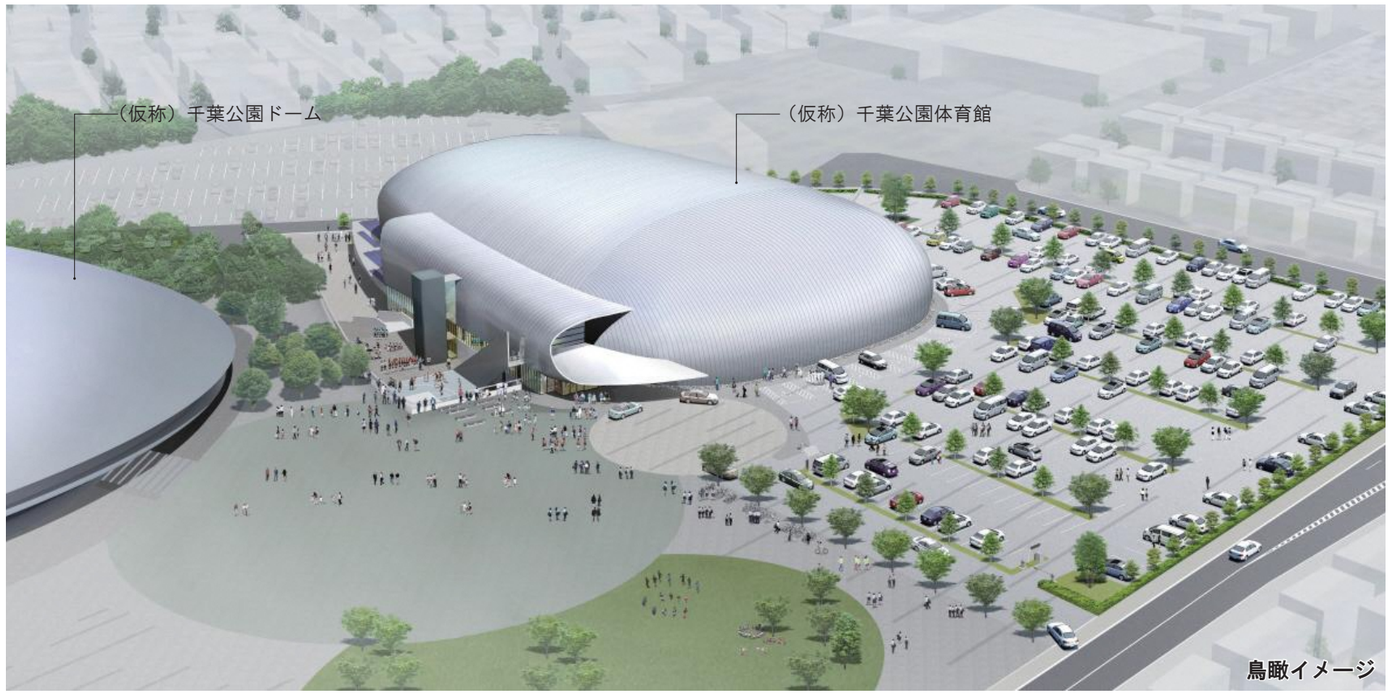
・大会使用を考慮し、メインアリーナとサブアリーナは同じ床仕上とします。

・共用スペースは、憩いと市民交流の場としてふさわしい素材・色彩を選定します。

・管理諸室他、各機能諸室は修繕が容易で、かつローコストな仕上げとします。

・仕上材及びその下地は、有害な化学物質が限りなく少ない材料（Ｆ☆☆☆☆：フォースター）を選定します。

・メイン・サブアリーナ及びスポーツフォーラムの天井は屋根鉄骨直貼りとし、耐震性を考慮した計画とします。



鳥瞰イメージ

スポーツフォーラム内観イメージ

６．断面計画

（１）断面計画の考え方～ドーム形状の採用

・敷地内の有効活用を図り、300台の駐車場台数を確保するため、武道場・弓道場上部にメイン・サブアリーナを積層させることで建物のコンパクト化を図ります。

・大空間となるメイン・サブアリーナは隣接配置としドーム形状で覆う架構とします。ドーム形状の屋根は、ロングスパンでも下部構造体へ応力を伝えやすく、各競技の必要高さと空間の容積を必要最小限に満足させる合理的な形態とします。

・各空間の機能に沿った天井高を確保し、無駄のない階高設定とします。

・第一種高度地区に該当するため、建物高さは20m以下に抑えた計画とします。敷地内に3m以上の高低差があることから、建物高さを算定する領域が2つに分かれるため、それぞれの領域（領域1・2）での建物高さを20m以下とします。

（２）階高設定

以下にあげる主要諸室の天井高さを確保する階高設定を行います。

・メインアリーナ天井高さ…12.5m

国際バレーボール連盟主催の世界大会を行うのに必要な有効天井高さ12.5m、日本バドミントン協会主催の大会を行うのに必要な有効天井高さ12mをそれぞれ満たす天井高さとします。

・サブアリーナ天井高さ…10.0m

バレーボールの国民体育大会施設基準にて推奨する有効天井高さ10.0m、バドミントンの文部省体育局体育課監修の体育スポーツ総覧で推奨する有効天井高さ8mをそれぞれ満たす天井高さとします。

・器具庫出入口高さ…2.3m以上

各競技に必要な器具が収納可能な出入口高さを確保します。

※移動式バスケットゴール（H=2.15m）が最大

・観覧席…1段あたり奥行き0.83m×高さ0.45m

段床の勾配はセンターコート使いの場合のバスケットコートサイドラインを基準に観覧者の可視線により決定します。

（千葉市火災予防条例：いす席の前後間隔0.35m以上、いす席の幅0.4m以上、いす背の間隔0.8m以上）

・武道場天井高さ…4.0m

武道場（柔・剣道場）事例となぎなたの動作寸法3.5mより、有効天井高さを4.0mと設定します。

・弓道場天井高さ…4.0m

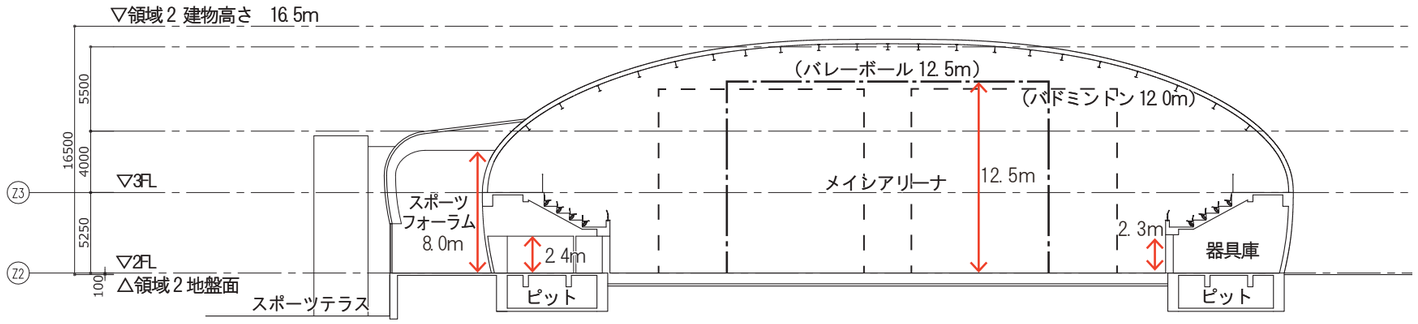
全日本弓道連盟推奨高さ4.0mを確保します。

・トレーニングルーム…3.5m

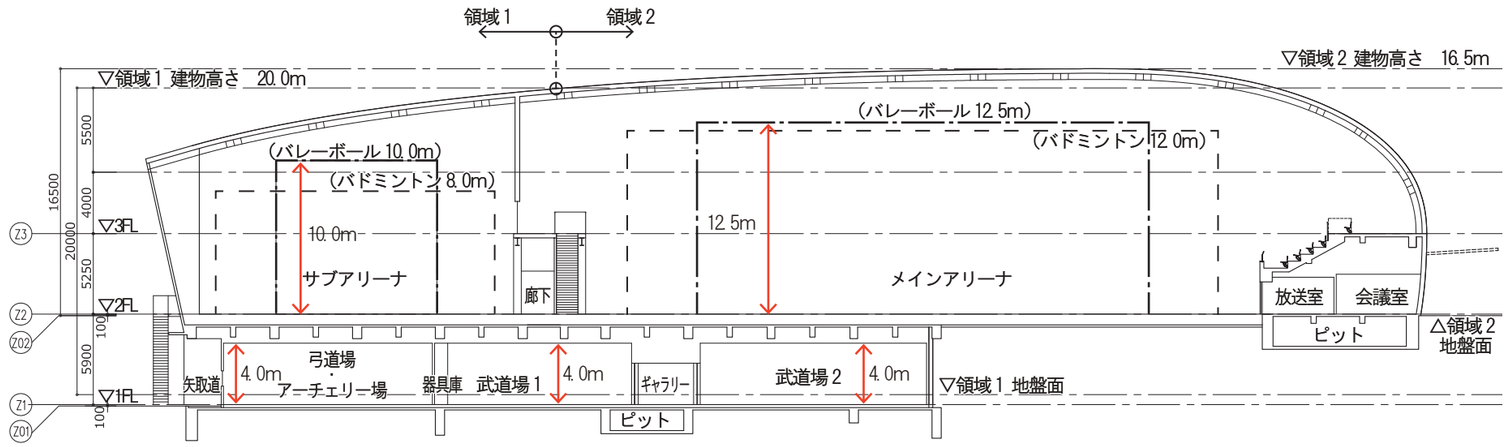
・多目的室…3.5m

・2階スポーツフォーラム

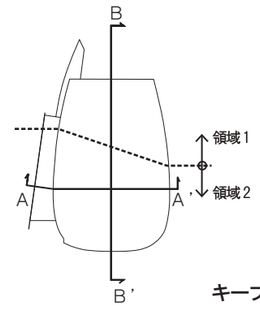
隣接するメイン・サブアリーナのドーム形状に調和する曲面の吹抜け空間とします。スポーツを通じた交流や出会いの場に相応しい、開放的で包まれるような断面計画です。



A-A’断面図　S=1/400



B-B’断面図　S=1/400



キープラン

7．環境配慮計画

費用対効果を検証のうえ、省エネルギー・創エネルギーに関する技術的な取組みを行うことで、一次エネルギー消費量の15%程度の削減を目指します。各技術的な取組みのうち、主なものを次に示します。

（1）省エネルギーについて

1)大空間の環境配慮計画

・競技に必要な高さを確保しつつ、天井高さを抑え気積を少なくする計画とします。
・アリーナは床輻射空調の採用により、大空間を効率よく空調します。
・アリーナには競技に支障がある採光面を設けない計画とし、外部負荷を低減します。
・アリーナ屋根は、ひとつづきのドーム形状でつなぎ目のないシームレスな計画とすることで、屋根からの漏水の可能性を低減します。

2)自然エネルギーの活用

・メイン・サブアリーナを除く主要スポーツ室やスポーツフォーラムには積極的に自然採光・通風を取り入れ、省エネルギーで快適な環境をつくります。
・各階換気窓は手動タイプを基本とし、共用部は施設管理者、専有部（スポーツ室）は各施設の利用者がそれぞれ開閉を管理する計画とします。
・外壁は高断熱化、ガラスは断熱ガラスを用い、断熱性を高めます。
・雨水を貯留し、植栽帯の散水及びトイレの洗浄水に再利用します。

3)高効率設備システムの導入

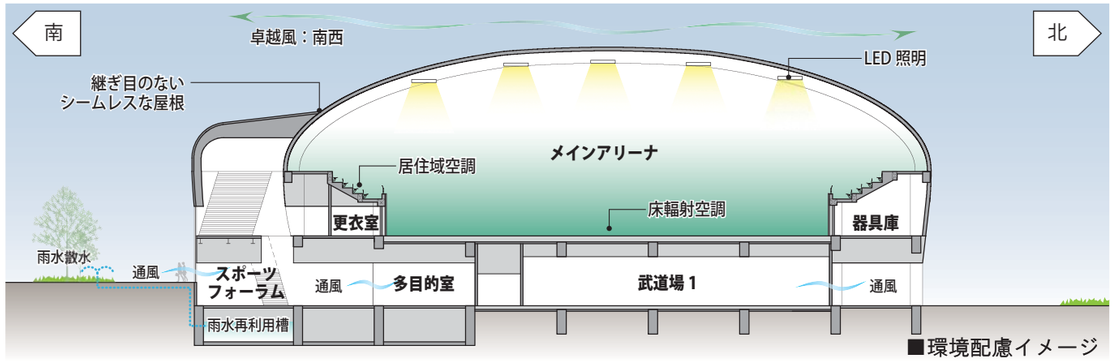
省エネルギー・省力化・経済性を考慮した機器及びシステムを採用し、ランニングコストの低減を図ります。
・ＬＥＤ照明：照明器具については、省エネルギーなＬＥＤ照明を導入します。
・人感センサー：トイレ・更衣室・管理用の廊下には、人の所在を感知して照明を点灯・消灯する人感センサーを導入します。
・高効率パッケージエアコン：各室の空調機には、高効率パッケージエアコンを導入します。

4)維持管理費の削減

・汚れにくく、耐久性・更新性に優れ、イニシャルコスト及びメンテナンスコスト・耐用年数を考慮した仕上材料の選定を行います。
・アリーナの屋根材にはステンレスシーム溶接工法を採用し、超寿命化・ランニングコストの低減を図ります。

（2）創エネルギーについて

・太陽光発電パネルを、発電効率の良いトレーニングルーム屋上に設置し、設置容量は20kwを確保します。
※20kwの設置容量は、施設全体に使用される照明消費電力の15%（災害時設定照度）と同程度です。
・創エネルギーの「見える化」を図るため２階スポーツフォーラムに設置した情報表示ディスプレイには、太陽光発電の発電量を掲示します。



■環境配慮イメージ

8．バリアフリー・ユニバーサルデザイン計画

全ての人に対し開かれた施設として必要な機能を備え、快適に利用できるために、利用者部分については千葉県福祉のまちづくり条例への適合、及びバリアフリー法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たす計画とします。誰もが利用しやすい施設計画とするため、次の点に配慮します。

１）各部及び各設備毎の対応方法

■案内・誘導
・単純な平面構成によるわかりやすい動線計画とします。
・施設を訪れる高齢者・身障者・外国人等、誰でもわかりやすい色彩や番号表示、ピクトグラムを併用したサイン計画とし、大きさや位置等、見やすさに配慮した計画とします。

■通路・階段
・施設内外では、基本的に各階に床段差のないフラットな計画とします。
・室の出入口は、車いすの通行幅を確保するため最低90cm以上の幅員とします。
・段差スロープ等は高齢者や障害者に配慮した幅員・勾配を確保します。

■エレベーター
・バリアフリー対応型のエレベーターを１基設けます。
・障害者スポーツ競技者を考慮し、かごは17人乗りとします。

■車いす使用者用駐車場
・車いす使用者用駐車場は10台確保します。

■多目的更衣室
・車いす使用者・親子連れ等、誰もが気軽に利用できる多目的更衣室を２階男女更衣室に隣接して設置します。

■オストメイト
・各階１以上の多目的トイレは、オストメイト対応トイレとします。

２）対象者毎の対応方法

■車いす使用者
・各階シャワー室には、車いすが転回可能な多目的シャワー室を１ヵ所ずつ設置します。
・男女共用の多目的トイレを1・3階には１ヶ所、メイン・サブアリーナのある２階には２ヶ所設置します。
・エレベーターに近い観覧席南側中央と東側中央に車いす使用者用客席を３席ずつ（計６席）設けます。

■視覚障害者
・主要な案内表示には点字表示を行います。
・弱視の方への対応として、明度差の高いサイン計画・色彩計画を行います。
・ユニバーサルデザイン対応フォントを使用します。
・点字ブロックは、歩道から出入口、出入口から受付カウンターまでの敷設による誘導を行います。
・階段は滑りにくい材質の床仕上とし、必要な箇所に手摺や点字ブロックを設置します。

■聴覚障害者
・車いす使用者用客席周辺には磁気ループを設置します。
※磁気ループ：聴覚障害者用の補聴器を補助する放送設備のこと。磁気ループによりもたらされる磁気を受信し音声信号に変えることで、雑音の少ないクリアな音声を聞くことが可能です。

■乳児・幼児
・エントランスホールにベビーカーを置けるスペースを確保します。
・授乳室をキッズルーム内に設置します。
・各階の多目的トイレにベビーシートを設置します。
・各男女トイレブース１ヶ所にベビーチェアを設置します。

9．防災計画

（１）災害時の考え方

・本施設は、災害の危険性があり、避難した住民等が、災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした、千葉市の指定避難所として、整備完了後に指定される見込みです。以下に必要な機能を設定します。

（２）指定避難所における避難者の居住スペース設定

・避難者の居住スペース：メイン・サブアリーナ、武道場１・２、弓道・アーチェリー場（射場）、多目的室、会議室

（３）指定避難所としての機能継続

・指定避難所となる施設であることから、総合耐震計画基準は、構造体Ⅱ類、非構造部材A類、建築設備乙類とし、高い耐震性能を有する施設とします。

・指定避難所として、インフラが途絶えた場合でも７２時間の機能継続ができる施設とします。

（４）指定避難所としての機能強化

１）避難者の居住スペース

・照明は50%程度稼動

・コンセントは25%

２）避難者が利用する共用部：スポーツフォーラム・廊下等

・照明は25%程度稼動

３）避難者の利用するトイレ（屋内）：１・２階トイレ・多目的トイレ

・照明は50%程度稼動

・ポンプ、フラッシュバルブを稼動

４）避難者の利用するトイレ（屋外）：マンホールトイレ　（屋外に５基設置）

５）災害対策支援：事務室

・照明は50%程度稼動

・コンセントは50%

・防災盤の稼動

６）屋内で炊き出しを行う室：給湯室

・照明は100%程度稼動

・コンセントは100%

・炊き出し用IHクッキングヒーター（２口×１台）の稼動に加え、ガス栓を設置し、ガスコンロ・調理器具・電気ポッド等（備品）による炊き出し

７）空調設備の対応

・多目的室を健康弱者の受け入れや女性の授乳スペースとして設定し、72時間の空調を稼動

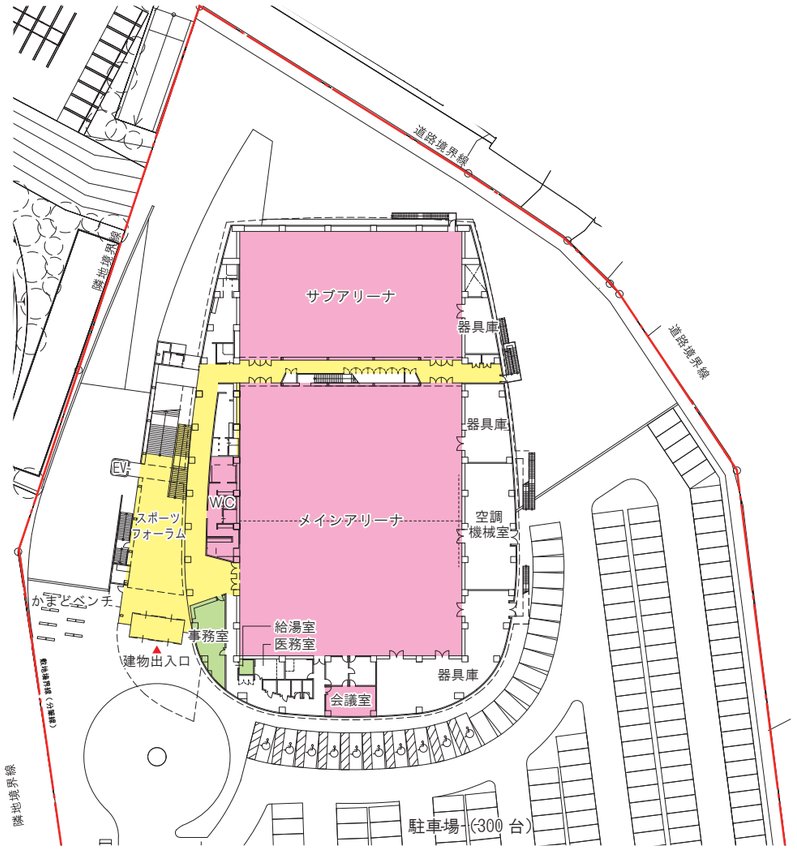
８）飲料水の確保：受水槽の水は非常時に飲用水として利用できるよう緊急遮断弁・災害用水栓を設置します。

９）太陽光発電設備（20kw）：蓄電池に充電し、停電時は自立運転により一部コンセントを稼動します。

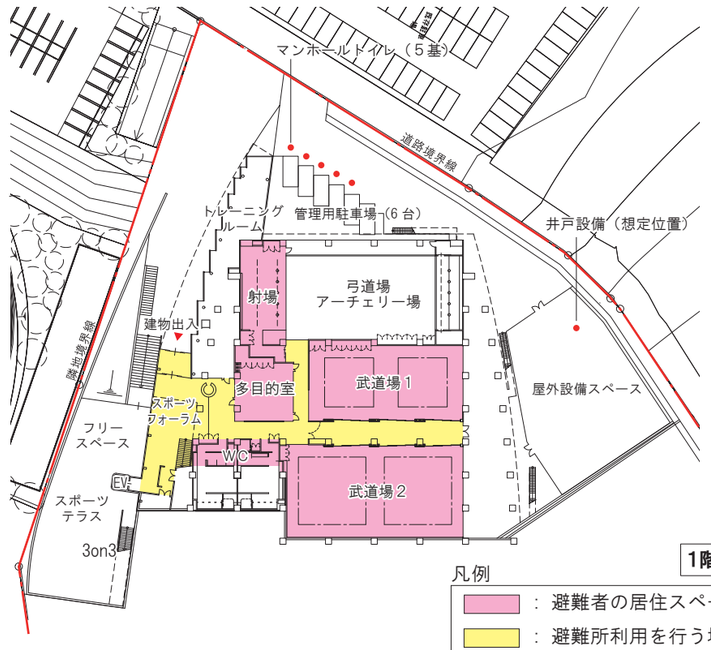
10）井戸設備：井戸から井水をポンプアップし、雑用水（雑用水槽の補給水）として利用することで節水を図ります。井戸ポンプは、災害時の雑用水確保として非常用発電系統とします。

11）防災備品：防災備品は体育器具庫内の余剰スペースを活用して備蓄します。

12）災害時用公衆電話回線：事務室内に通信規制を受けにくい公衆電話回線用モジュラージャック（2回線分）を設置し、一般電話回線が使えない被災直後でも、電話機の接続により無料通話を可能とする計画です。



2階平面図 S=1:1000



1階平面図 S=1:1000

凡例

：避難者の居住スペース

：避難所利用を行う場合の共用部

：災害対策支援